



## 春うらゝか

三月十三日

今日はまあ何といふ  
いゝお天氣でせう。

組の子を連れて本校  
に行き寫真うつす。遊  
んでゐると林の組でも  
ぞろ／＼やつて來た。

この先生もコダック御持參。

幼稚園に歸る。

窓に見える小鉢、ヒヤシンスのとき色が春をう  
たつてでもゐるやう。

どのお室もみんな出拂つて机も腰掛もお留守番  
だ。

ブランコもひつきりなしに動いてゐる。

小臺上のレンガ刷り場は殊ににぎやかな。

しきのべられたゴザには腰かけ用の座ぶとん、

メリンヌ友染がぼか／＼してゐる。

窓から私が見てゐると知らず四五人は花咲爺さ  
んの話をしながらしきりに地べたを堀つて話中の  
人物になりすましてゐる。

ほんとに長閑な今日この春の日、東京中の幼稚  
園の子はきつとみんなお庭に出てゐるだろうと思  
ひつゝ歩いてゐると倉橋先生がいraftしやつた。  
廊下から玄關へ、庭へ。先生もたう／＼お出かけ  
だ。お煙草がいつ迄も同じ長さだ。つゞいて及川  
先生も。ずつと歩いて奥庭へ、多分御寵愛とな  
らぬ睡蓮の芽のその後のすがたを見にいらつしや  
つたらしい。

倉橋先生がニコ／＼ブラ／＼していらつしやる  
とお客様。やつぱり庭でそのまゝお話しがすんだ  
らしくお客様はやがてお歸り。

海の組は魁する春の日のビクニツクとしやれて  
バスケット片手にブラリとならんでゐる。本校の  
お庭でお辨當をたべるのださうで。この一隊へ號  
令をかけていらしやるところをバチリと教生の一  
人が。

何でも今日は外だ。

(よしこ)